

神戸学院大学有瀬図書館
展示通信第66号
2023年9月7日発行

Meridian



第66回有瀬図書館ギャラリー展

着物女子

開催期間：2023年9月5日(火)～2023年11月6日(月)

開催場所：神戸学院大学有瀬図書館
本館2階 エントランス展示コーナー

*開催時間や開催期間は変更になることがあります。図書館HPにて、ご確認のうえご来館ください。

- ・「着物の前合わせは右前」が根付いた
 庶民：胡服（こふく） / 公家：礼服（らいふく）・朝服（ちょうふく）・制服（せいふく）
 素材：絹や植物繊維

- ・着物の歴史に変化を与え、日本独特の色の調和を尊ぶ伝統が生まれた
 庶民：小袖（こそで） / 公家：束帯（そくたい）十二単（じゅうにひとえ）などの大袖

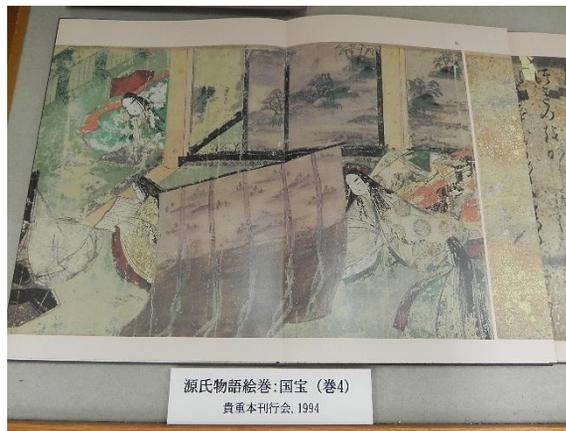
平安



▲百人一首、桜楓社、1981▲



▲源氏物語絵巻：国宝（巻3）、貴重本刊行会、1994



▲源氏物語絵巻：国宝（巻4）、貴重本刊行会、1994

戦
国

- ・「着物」という言葉が使われ始める
- ・武家や町人が袂（たもと）のついた小袖を着るようになる

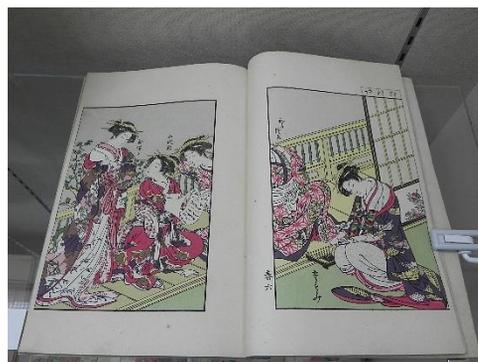


- ・身分によって着用できる着物が限定される
 商人：豪華な色や高級素材の着物 / 庶民：麻または綿素材で、茶・鼠・藍色の着物

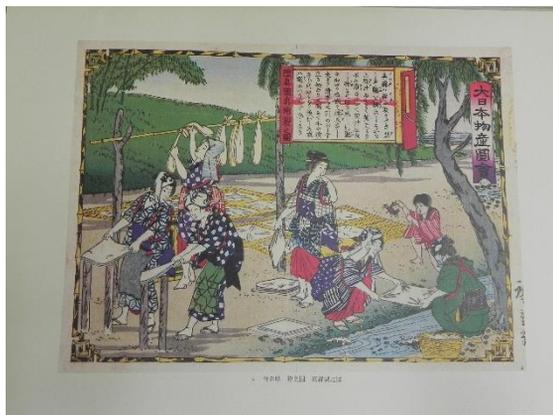
江戸



▲繪本青樓美人合（巻4）、風俗繪巻圖畫刊行會、1917



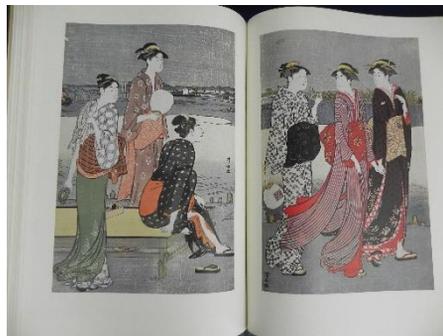
▲青樓美人合姿鏡（春夏）、風俗繪巻圖画刊行會、1916



▲大日本物産図会, 光彩社, 1979



▲めでのる国芳ブックねこ, 大福書林, 2015

▲鳥居清長
学習研究社
1972▶喜多川歌麿
学習研究社
1973

浮世絵

江戸時代に流行した庶民的な絵画のひとつ。室町時代末期から桃山時代の風俗画の傾向を引き継いだもので、歌舞伎などの役者絵とともに美人画も展開されていった。版画は特に、浮世絵創始期の第一人者である菱川師宣に始まり一色刷りから錦絵のものに発展していく。

19世紀の後半から20世紀の初頭にかけてヨーロッパやアメリカでジャポニズム（日本趣味）の流行が起こり浮世絵の芸術的価値が高く評価された。

- ・鎖国が終わり、外国文化の影響を強く受ける
- ・宮中の礼装は洋服となるが、庶民の間では着物が着られる

竹久夢二

1905年（明治38）に『中学世界』に投稿のコマ絵、『ハガキ文学』に応募の図案が入賞し、早稲田実業学校を中退。その後『東京日日新聞』（現、毎日新聞）や日刊『平民新聞』に風刺的コマ絵や川柳などを寄稿する。

1907（明治40）年には岸たまきと結婚。彼女をモデルにいわゆる「夢二式美人」として名をはせる美人画と、同じモチーフの詩で一世を風靡した。



▲竹久夢二画集, 講談社, 1972

展示の様子



編集後記

今回のギャラリー展では「着物女子」と題して、平安から明治時代に描かれた女性の着物を展示しています。

着物のルーツは平安時代とされ、十二単など色の調和を楽しむ文化が生まれました。さらに江戸時代には色や柄、着方など、さまざまな発展を遂げました。江戸の女子たちは身分制度に則った範囲で、粋なファッションを楽しんでいたようです。

今では日本だけでなく海外からも愛される日本の伝統文化の一つとなっています。色鮮やかな着物と、その歴史も合わせて、ぜひご覧ください。

参考文献

日本大百科全書(ニッポニカ) 小学館全文全訳古語辞典
デジタル大辞泉 新版日本架空伝承人名事典
日本近代文学大事典 小学館全文全訳古語辞典
<https://kitsuke-school.jp/> (ロコミヤ評判で選んだ人気の着付け教室ランキング!)

神戸学院大学図書館展示会通信 MERIDIAN第66号

2023年9月7日発行

発行・編集：神戸学院大学 有瀬図書館

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

TEL：078(974)4584

E-mail：pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp

ホームページURL：http://opac.kobegakuin.ac.jp/

